

Ⅱ. 周縁化される外国人のための総合的なしくみづくり事業

1-1. おとなサポート事業

(1) 相談サービス

◆相談サービス

生活相談・外国人女性専用電話相談		相談受付数:479件
毎週金曜日	11:00～16:00	
相談員	吉嶋かおり(臨床心理士)	
就労相談コーディネーター	岩田ユミ(社会福祉士)	
多言語スタッフ	中国語	張迪/賈晨
	韓国・朝鮮語	崔成姫/朴貞淑
	フィリピン語・英語	平松マリア/メネシオ・ライル・エスベランザ
	タイ語	ラビーバン・カンブンシュー
	ポルトガル語	中原田ブルーナ
	スペイン語	滝本クラウディア
	インドネシア語	ピカ・イエステア・ギナンジャール

◆相談件数

2012年度まで就労相談は、「在住外国人就労支援多言語スタッフ養成モデル事業」として自主事業で実施していたため、別集計していたが、2013年度から指定管理事業の相談サービスの一環としたため、集計を一元化した。就労相談を除いた相談件数は404件、前年度比約10%増で、過去5年の中では最も相談件数が多かった。相談者の居住地は、例年通り豊中市が最も多く、55.7%だった。「利用者」は、これまで豊中市民が70～80%を占め、圧倒的に多かったが、3年前より減少が続き、2013年度は、昨年とほぼ同様で58.3%だった(前年は53%)。また、「非利用者」は全体の55.9%だったが、そのうち豊中市民は53.7%だった。国籍はフィリピンが最も多く28.2%。次いで中国10.9%、韓国9.4%だった。2013年度は、南アジア、東ヨーロッパ各国からの相談が増加している。国籍は32カ国に及んだ。日本国籍で使用言語が日本語以外の相談は6件、外国籍だが日本語で相談を行ったのは204件で、そのうち相談対応言語以外の言語を公用語(母語)とするものは57件、15カ国語だった。在留資格は永住者が32.4%、次いで配偶者が15.2%だった。定住化した在住外国人からの相談が多い(55.3%)のは例年通りである。2013年度から職業を集計項目に入れた。多い順に、無職22.3%、パート・アルバイト16.1%、主婦12.1%だった。無職は生活保護受給者が多い。

<相談内容と件数>(1件の相談で複数の相談テーマがあるため、相談件数より母数は増えている)

大項目	件数	割合(%)	小項目 <カッコ内は全件に占める割合(%)>
夫婦関係	143	23.6	DV(12.3)、離婚(4.4)、親権・養育費(2.6)、不和・不満(3.8)、国際結婚(0.3)、その他(0.2)
手続き	69	11.3	在留資格など(8.9)、家族呼び寄せ(0.7)、養子(0.2)、その他(1.5)
生活	146	24	日常生活(6.1)、行政手続き(4.6)、住居(1.3)、日本語学習(5.4)、金銭問題(1.5)、交通事故(0.2)、その他(4.9)
保健	32	5.3	メンタルヘルス(1.8)、医療(1.5)、母子保健(1.8)、その他(0.2)
人間関係	20	3.3	家庭(1.2)、友人(0.5)、地域(1.2)、職場(0.3)、その他(0.1)
労働	111	18.3	求職(12.5)、就労定着上の問題(1.8)、失業・退職(0.3)、労災(0.2)、給料未払(0)、その他(3.5)
子ども	65	10.7	子育て(3.6)、学校(3.6)、保育所・幼稚園(1.0)、その他(2.5)
その他	21	3.5	人権侵害(0.2)、その他(3.3)

◆機関連携

他機関からの問い合わせ、他機関で受けた相談者への支援依頼など、他機関との連携による相談は86件(18%)だった。機関連携で多いのは、外国人DV被害者への対応、生活保護受給者の家庭や生活上等の問題、就労相談、子どもの学校生活における問題に関するもの、外国人母と乳幼児への対応に関するものであった。

2013年度は、DVについては豊中市人権政策室と連携し、ケース検討会議をもち、支援体制がスムーズになるよう、情報の共有と対応の検討を行い、就労相談は、雇用労働課の地域就労支援センターと連携・協力した。

豊中市	人権政策室、保健センター、子ども家庭相談室、幼稚園、小・中学校、福祉事務所、雇用労働課、市民相談課
豊中市以外の自治体・学校	他市DV担当、他市教育委員会、他市子ども家庭相談室、他市福祉保健課、公立高校、大学
公的支援機関	子ども家庭センター、母子福祉支援施設
その他支援機関	とよなか若者サポートステーション、AMDA、チャーム他支援団体、人権擁護団体
その他	弁護士、医師、協会事業ボランティア

◆スタッフ研修(内部・外部)

相談事業スタッフの研修を行い、相談員としての基本的な知識・スキルを学び資質向上をはかった。

実施日	テーマ 講師	参加者数(人)
6月22日、30日 7月6日	【外部研修】「通訳者・相談員スキルアップ研修」 講師:すべての外国人とその家族の人権を守る関西ネットワーク:RINK	12(12)
7月5日	ケース勉強会 講師:ファシリテーター:吉嶋かおり(相談員)	10(8)
9月20日	ケース勉強会 講師:ファシリテーター:吉嶋かおり(相談員)	10(8)
11月8日	豊中市社会福祉協議会の事業について 講師:勝部麗子(豊中市社会福祉協議会)	15(8)
2月14日	外国人労働問題と解決方法 講師:奥田慎吾(弁護士)	12(8)
合計		59(44)

◆外国人のための多言語セミナー

相談事業によせられる相談から課題を抽出してセミナー化し、広く情報提供をはかった。すべての講座に8言語逐次通訳と保育をつけて、外国人女性が参加しやすい環境を整えた。

実施日	テーマ 講師	参加者数 (人)
11月15日	外国人のための防犯セミナー 講師:豊中警察署	33(22)
11月29日	日本で働くための基礎知識 講師:笹尾達朗さん(あったかサポート、社会保険労務士)	30(20)
12月6日	履歴書の書き方 講師:日本語支援グループ・むすびめ	25(18)
2月7日	確定申告相談会1 講師:和田税理士	13(12)
2月21日	確定申告相談会2 講師:和田税理士	15(14)
3月7日	親を楽しむ5つのスキル 講師:田上時子(NPO 法人女性と子どものエンパワメント関西)	31(21)
3月23日	知ってる?こんなこと~生活に役立つ耳寄りな情報・生命保険と日本の冠婚葬祭について 講師:日本語支援グループ・むすびめ	12(4)
3月28日	子どもの塾の選び方 講師:韓文享(大阪市立御幸森小学校教員)	15(11)
合計		174(122)

◆地域連携

実施日	内容
4月17日	中心市街地活性化連絡会への参加
6月13日、2月27日	地域就労支援センターとのケースカンファレンス
6月26日	保健師会への参加・情報提供(中部保健センター)
8月6日	地域支援保育士例会への参加・情報提供
2月14日、3月28日	DVネットワーク会議ケース検討会議

◆フィリピン台風支援活動の実施(「多文化チャリティ・カフェ」「多文化チャリティ・コンサート」)

台風による被害をうけたフィリピンの子どもたちを支援するチャリティ・イベントを多言語スタッフが企画・運営。あわせてミニバザーや写真・記事の掲示をセンター内で実施し、受取寄付金やバザー品売上金 13 万円を公益財団法人日本ユニセフ協会に寄付した。

第1回	11月11日 12:00~16:00	テーマ	多文化チャリティ・カフェ
		内容	お菓子・料理の販売
		参加者数	55人(うち外国人30人)
第2回	12月20日 18:00~20:00	テーマ	多文化チャリティ・コンサート
		講師	多言語スタッフ、日本語学習者、ボランティア、市関係者等によるステージ、宮城県南三陸町で活動するフィリピン人女性からのビデオレター上映、フィリピン人利用者による現地の被災状況についてのプレゼンテーション等。
		参加者数	103人(うち外国人60人)
合計		158人(うち外国人90人)	

◆「日本語支援グループ・むすびめ」との協働事業

2009 年度～2010 年度文化庁委嘱事業「多文化共生社会の基盤をつくるための“むすびめ”を生み出す日本語コーディネーター研修(むすびめ事業)」で研修を受けたボランティアが中心となり、2011 年度に「日本語支援グループ・むすびめ」が結成され、月曜日のにはほんご活動事業「もっもっつかえるにほんご」の運営および、外国人への具体的な仕事や資格につながる支援事業(主に日本語を切り口とした)を協会と共催した。

<日本語能力検定試験パーソナルサポート>

就労のための資格取得サポートの一環として、日本語能力検定試験にむけた個別サポートを実施した。今年度は基本的に毎週火曜日の開催とし、試験日の3ヶ月前からの実施をおこなった。

参加者数	95 人(うち外国人 48 人)	
サポートのべ回数	47 回	
サポートのべ時間数	98 時間	
内容	日本語検定試験のためのボランティアによる個別指導	
実施日 (同日に複数回実施もあり)	5 月	7、14、21、28
	6 月	4、11、18、25
	9 月	5、10、12、19、20、27
	10 月	4、8、10、11、15、17、18、22、25、29、31
	11 月	1、5、7、8、12、14、15、21、26、28、29

<その他の資格取得パーソナル・サポート>

就労・資格取得に向けた個別サポートも実施した。今年は通信教育による教職課程資格取得のためのサポートを実施した。

参加者数	20 人(うち外国人 7 人)	
サポートのべ回数	7 回	
サポートのべ時間数	12.5 時間	
内容	レポート作成のためのポイント指導・学習へのアドバイス	
実施日(同日に複数回実施もあり)	10 月 22 日、12 月 5、9、16 日、1 月 16 日、2 月 24 日、3 月 20 日	

<協会/むすびめ連絡会>

「日本語支援グループ・むすびめ」と協会が実施する共催事業や資格・就労のための日本語学習の打ち合わせなど、情報共有を定期的実施した。

参加者数	のべ 50 人(うち外国人 10 人)
実施日	6 月 17 日、7 月 22 日、9 月 30 日、10 月 28 日、11 月 19 日、11 月 25 日、12 月 16 日、2013 年 1 月 27 日、1 月 28 日、3 月 17 日

2. 子どもサポート事業

(1) 多文化子ども保育 “にこにこ”

地域に暮らす就学前の外国人の子どもたちが、読み聞かせや自由遊びなどの保育を通して、多様な子どもや大人と接し、コミュニケーションを取ることで社会生活に慣れるための場づくり。保護者にとっては子どもと離れて日本語活動活動へ参加したり、自分の時間を持てる場になっている。外国人保護者にとっては、保育の専門知識を持つボランティアへ子育て相談をしたり、幼稚園・保育所のことなど地域の情報を得ることができる場になっている。

実施曜日	時間	回数	ボランティア登録者数	参加者数(のべ人数):うち外国人 ボランティア登録者数(のべ人数)
木曜日	13:30~15:30	44回	3人	子ども(44):うち外国人(44) ボランティア登録者数(113)
金曜日	10:30~12:00	47回	4人	子ども(315):うち外国人(293) ボランティア登録者数(144)
			合計	子ども(359):うち外国人(337) ボランティア登録者数(257)

◆豊中子ども読書推進連絡協議会

豊中市が2005年3月「豊中市子ども読書活動推進計画」(「推進計画」)を、また具体的に推進するために、2006年8月に「子ども読書活動推進計画 実施計画」(「実施計画」)を策定した。11月に豊中市子ども読書活動推進連絡協議会が設置され、すべての子どもの読書環境を整備していくこととなった。国際交流協会もその一端を担い、特に「障害のある子どもや外国人の子ども」の読書環境を整備するワーキンググループ(第2回会議より「小中学生グループ」との合同会議)に参加し、具体的な事業実施に協力した。「2007年度事業実施報告書」には、協会における子ども読書活動の取り組みが取り上げられ、読書活動において「外国人の視点」が、地域課題の一つとして認識された。

言語的マイノリティに置かれる外国につながる子どもたちが、乳幼児期から母語や本(絵本)と出会うために、多文化子ども保育にこにこ、おやこでにほんご(岡町・庄内・千里)、子ども母語などの事業で、プログラムに絵本の読み聞かせなどを取り入れたり、センターに外国語絵本コーナーを設けるなど、事業横断的に外国人親子の読書活動推進を行っている。また、今年度は読書活動を啓発する映画「じんじん」上映会の実行委員となり、市に協力して上映会(於:すてっぷホール)を開催した。

<ハード面での環境整備>

- ① 外国語絵本コーナーの整理、周知
- ② 市立図書館の外国語図書を配架(半年毎に入れ替え)

<ソフト面での環境整備>

- ① 外国人親子の居場所づくり(おやこでにほんご)でのよみ聞かせ(母語・日本語)を行った。
- ② 読書活動を啓発する映画「じんじん」上映会の実行委員となり、市に協力して上映会を開催した。

実施日(内容)	場 所
5月24日 (第1回会議)	岡町図書館
6月25日 (第1回ワーキンググループ会議)	岡町図書館
10月29日 (第2回ワーキンググループグループ合同会議)	岡町図書館
11月15日 (第2回会議)	岡町図書館
12月20日 「子どもを本をつなぐ地域交流会」	岡町図書館
1月29日 (第3回ワーキンググループグループ合同会議)	岡町図書館
2月13日 (第3回会議)	岡町図書館
映画「じんじん」実行委員会・上映会	3会場:10回上映
12月20日 実行委員会	岡町図書館
1月13日 実行委員会、試写会	岡町図書館
2月18日 実行委員会	国際交流センター
3月11日 上映会	すてっぷホール

◆公民協働子育て支援イベント ～ みんな集まれわくわくランドへの出展協力

市が年に一度開催する子育てイベント。実行委員会に参加し、当日の出し物として今年は「しょうない・おやこでにほんご」ボランティアと参加者がサンバ・ワークショップ体験と世界の楽器・絵本の展示・体験コーナーを運営した。そして事業(おやこでにほんご、日本語交流活動、相談など)の広報をした。

(2) 子ども母語教室

外国にルーツを持つ子どもが母語や文化を学ぶことを通じて仲間と出会う場づくりを目的に、中国語、スペイン語、ポルトガル語、インドネシア語の4言語の母語教室を月に2回開催した。母語のスタッフはルーツを持つ大学

生で、子どもにとってピア(同じ経験をした仲間)サポーターであると同時に、ロールモデルとしての役割を果たした。

<定例>

実施曜日	時期	時間	回数	参加者数(人)
第2日曜 第4日曜	2012年4月14日 ～2013年3月23日	10:00～12:00	83回	子ども(151)、親(32)、ボランティア(111) 総合計 294人(うち外国人 262人)

<クラス別>

クラス	年間活動回数	参加者数 (人)	
中国語	21	子ども 31	ボランティア 26
ポルトガル語	21	子ども 88	ボランティア 28
スペイン語	20	子ども 21	ボランティア 20
インドネシア語	21	子ども 11	ボランティア 37

<その他>

実施日	内 容	参加者数 (人)	合計
5月12日	【合同イベント】母の日 メッセージカード作り	子ども 9 ボランティア 5	14
6月23日	【合同イベント】ポルトガルのおまつり(フェスタ・ジュニーナ)	子ども 8 ボランティア 5	13
10月13日	【合同イベント】インドネシアの料理(ビジサラック)作り	子ども 1 ボランティア 6	7
1月26日	【合同イベント】中国の旧正月、切り絵作り	子ども 9 ボランティア 6	15
3月9日	【合同イベント】スペインの軽食(ロモ・サルタール)作り	子ども 12 ボランティア 6	18

(3) サンプルイス

外国にルーツを持つ子どもを対象に、大学生・大学院生ボランティアによる日本語・学習支援を通じた居場所づくりを行った。外国にルーツをもつ学生もボランティアとしてかかわっており、そのことで子どもの悩みやニーズへ柔軟な対応が可能とした。今年度は「国際交流と人権を考えよう PART2」で子どもがやりたいことを形にしたダンス発表という初の試みを行った。

<定例>

実施日	時期	時間帯	回数	参加者数(人)	
毎週日曜	4月7日～3月30日	13:00～15:00	34	子ども (うち外国人)	279(242)
				ボランティア(うち外国人)	222(91)
				合計 (うち外国人)	501(333)

<その他>

実施日	内 容	参加者数(人)	合計
4月21日	一周クラブ(ラーメン記念館)に参加	子ども(4)、ボランティア(6)	10
6月9日	多文化ミュージカトル合同ワークショップ	子ども(5)、ボランティア(4)	9
8月4日	サンプル遠足 於:キッズプラザ大阪	子ども(10)、ボランティア(7)	17
8月10・11日	全国外国人生徒交流会 (場所:横浜市野島青少年研修センター)	子ども(2)、ボランティア(1)	3
8月27日	宿題をやっつけよう!夏休みインテンシブ①	子ども(1)、ボランティア(3)	4
8月29日	宿題をやっつけよう!夏休みインテンシブ②	子ども(1)、ボランティア(3)	4
8月31日	宿題をやっつけよう!夏休みインテンシブ③	子ども(3)、ボランティア(4)	7
8月31日	サンプルイス/トワイライト 卒業生・ボランティア同窓会	子ども(3)、ボランティア(4)	7
10月26日	国際交流と人権を考えよう PART2 でダンス発表	子ども(2)、ボランティア(6)	8
10月27日	ハロウィンパーティー	子ども(4)、ボランティア(6)	10
	総合計		79

・千成小学校より協力依頼があり、「ミニせんなり」のアドバイザーとして参加した。

	実施日	時 間	内 容	参加者数(うちボランティア)
1	9月6日	10:45～12:20	第1回 子ども会議	5(4)
2	9月13日	10:45～12:20	第2回 子ども会議	5(2)
3	9月18日	13:25～14:10	第3回 子ども会議	7(5)
4	9月27日	10:45～12:20	合同会議	5(2)
5	10月4日	10:45～12:20	第4回 子ども会議	5(2)

6	10月11日	10:45~12:20	第5回 子ども会議	3(1)
7	10月15日	13:45~15:20	ミニせんなり(第1回本番)	4(2)
8	10月18日	10:45~12:20	子ども会議 振り返り	4(1)
9	10月22日	8:50~12:20	ミニせんなり(第2回本番)	0
10	10月25日	10:45~12:20	合同会議 まとめ	4(2)
総数				42(21)

◆子ども事業スタッフ・ボランティア研修

実施日	内 容(講師)	参加者数(人)
4月28日	外国にルーツをもつ子どもの現状と、協会の子ども事業について (講師:事務局長 金相文)	8
7月28日	レイシズムに対抗する関西集会	3
8月25日	テーマ:支援者としてのピアを考える (講師:柿本隆夫さん、チューブ・サラーンさん、劉麗鳳さん)	4
9月22日	月1回チャンゴワークショップ(講師:事務局長 金相文)	5
11月14日	門真なみはや高校公開授業見学	3
11月24日	パルーンアート講習会(講師:橋口孝幸さん)	8

◆関係機関等との連携

実施日	内 容	場 所	参加者数
4月27日	セミナー「外国籍の子どもの教育～高校進学・卒業という壁」	ヒューライツ大阪	2
5月9日	豊中市外国人教育推進担当者会議	克明小学校	3
5月23日	池田市立呉服小学校 国際理解学習全校集会・母国語教室開講式	池田市立呉服小学校	4
5月27日	豊中市立克明小学校 放課後子どもクラブ「地球一周クラブ」打ち合わせ	豊中市立克明小学校	1
6月15日	移住労働者と連帯する全国フォーラム・神戸 2013	甲南大学岡本キャンパス	1
6月20日	池田市立呉服小学校 母国語教室の子どもたちのセンター見学	とよなか国際交流センター	8
6月30日	奈良・在日外国人保護者の会結成 20周年記念祝賀会	ホテル日航奈良	3
8月1日	第1回こども施策推進連絡会議 相談・支援専門部会	豊中市役所	1
8月9日、 10日	全国外国人教育推進協議会 生徒交流会	野島青少年研修センター (横浜市)	2
9月4日	第2回こども施策推進連絡会議 相談・支援専門部会	豊中市役所	1
10月19日	大阪府教職員組合教育研究集会	豊中市立野田小学校	1
10月28日	克明小学校 放課後子どもクラブ「地球一周クラブ」講師派遣	豊中市立克明小学校	1
11月13日	克明小学校 放課後子どもクラブ発表会	豊中市立克明小学校	1
11月26日	第3回こども施策推進連絡会議 相談・支援専門部会	豊中市役所	1
12月9日	克明小学校 放課後子どもクラブ「地球一周クラブ」見学	豊中市立克明小学校	1
1月18日	池田オリニモイム	池田市立呉服小学校	4
1月27日	克明小学校 放課後子どもクラブ「地球一周クラブ」 講師派遣	豊中市立克明小学校	2
2月2日	第19回 兵庫県外国人教育研究集会	神戸市立だいち小学校	2
2月15日	コリア国際学園 卒業式	コリア国際学園	2
3月6日	池田市立呉服小学校 国際理解学習全校集会・母国語教室修了式	池田市立呉服小学校	6

教育相談 合計 42 件

内 容	件数
学習支援	4
母語・母文化学習	1
日本語支援	11
進学/進路	10
就労	1
金銭問題	0
学校でのトラブル	7
家庭内のトラブル	2
保健	0
その他	6
合計	42

Ⅲ. 学校とつながってつくる豊かな未来事業

1. 小学校英語外国語体験活動事業(豊中市教育委員会受託事業)

豊中市が総合計画で推進している「共に生き共に学ぶ開かれた社会を築く」ために、豊中市市民公益活動条例に基づいて豊中市教育委員会と協働実施している「豊中市小学校英語(外国語)体験活動」提案公募型事業に選定され、受託した(2006年度より)。地域に暮らす外国人(サポーター)が学校と協働し、地域に根差した社会参加を展開していく可能性を模索することを目指した。

◆事業内容

全豊中市立小学校の3年生から6年生を対象に、国際理解教育の一環として英語(外国語)に触れ親しむ体験活動を実施した。その上で、次の3点を柱に据えた「共に学び、創造する心豊かなまちづくり」を推進した。

- ① 教職員や子どもたちに、地域に暮らす異なる言語、価値観、文化を持つ人との豊かな「であい」を提供した。
- ② その「であい」から、もっと知りたい、つながりたいという動機が芽生え、相互理解を促すためのコミュニケーション能力が双方向に向上するよう取り組んだ。
- ③ 学校に在籍する外国にルーツを持つ/外国籍の子どもたちの自尊感情がはぐぐまれ、マイノリティの子どものエンパワメントになること、と同時にサポーター自身のエンパワメントにもつながる取り組みをした。

◆実施体制

<サポーター : 英語 26人(13か国)、その他の言語 30人(10か国・地域)>

英語体験活動のサポーターは、英語を第1、第2言語または生活・学習言語としてきた者が中心であった。また英語以外の外国語体験活動サポーターは、自国のことばと共に、日本語または英語の能力を有する者であった。サポーターの国籍や年齢、職業、在留資格、来日経緯、滞日歴、日本語の程度はさまざまであった。

◆実施実績

サポーター数	56人	
サポーター活動総時間数	1,253時間	
体験子ども数	のべ14,100人	
英語サポーター国籍数	13か国 26人	
	内訳	フィリピン、タイ、オーストラリア、エクアドル、モンゴル、中国、バングラデシュ、インド、スリランカ、イラン、エジプト、インドネシア、米国
外国語サポーター国籍数	10か国・地域 30人	
	内訳	韓国、中国、スペイン、フランス、ベトナム、タイ、ブラジル、セネガル、ロシア

2. 国際教育推進事業

◆豊中市国際教育推進協議会

文部科学省は2005年8月に「初等中等教育における国際教育推進検討委員会」報告書をまとめた。国際関係や異文化を単に理解するのではなく主体的に行動するための態度や能力の基礎を育成する「国際教育」の必要性を唱え、「国際教育推進プラン」を実施する地域を指定した。豊中市も一つとして、2008年度までの3年の事業に取り組んだ。翌年度はそれを引き継ぐ型で推進プロジェクト協議会を作り、豊中市でユネスコスクールを設立、韓国の教員との交流などを行った。2010年度より再度「豊中市国際教育推進協議会」を立ち上げた。

2014年2月8日に行われた国際教育フォーラムは、WebTVシステムを活用した韓国・ニュージーランド・豊中市&気仙沼市(日本)の3か国こども会議がもたれ、各国の学校現場での子どもたちの取り組み交流が行われた。また、各国の教育関係者により持続可能な開発のための教育(ESD)と国際教育について、活動紹介と問題提起がなされた後に、園田学園女子大学の堀田博史さんにより総論的なまとめがなされた。

◆豊中市国際教育推進協議会等の開催について

協議会の開催 3回

第1回 6月20日 取り組みの方向性 年度計画 実務機関の設置、日本語指導に関する調査

第2回 11月1日 実務担当者会からの報告 2013年度豊中市国際教育フォーラムについて

第3回 3月25日 国際教育フォーラム報告 実務担当者会からの報告

実務担当者会(日本語指導)4回

第1回 7月4日 目的の確認 帰国外国人児童生徒の日本語習得状況調査 年度計画

第2回 8月27日 日本語指導に関する調査①(調査項目・対象者・方法・スケジュール等)について

第3回 10月3日 日本語調査①先行実施要項(案)について

第4回 12月19日 調査①の分析と課題、分析結果の通知と調査②の依頼

◆2013年度 2/8 国際教育フォーラム3か国こども会議(於:大阪大学豊中キャンパス)

実施日時	2月8日 9時20分～12時15分	
フォーラム	テーマ	「つどう・つながる・つちかう 未来への行動力 豊中型国際教育」 ～つながる世界、創ろう未来 3か国こども会議～
各国の研究報告	研究テーマ	「ESD 実践ガイドの充実及び協働学習に至る経過説明」
	機関名	豊中市教育委員会(日本)
	研究テーマ	「メンテナンスリサイクル」
	学校名	ノースロバーンスクール(ニュージーランド)
	研究テーマ	「心をひとつに進行する教育課程で行うESD」
	学校名	虎元初等学校(韓国)
「3か国こども会議」	内容 交流形態	【環境(エネルギー・食糧・ごみ問題)リサーチワークから】 フレンドシップ協働学習(WebTV 会議システムを活用した日本国内2か所、韓国、 ニュージーランドの4拠点を結ぶ会議
	学校名 (生徒数)	豊中市立第二中学校生徒(2名)、気仙沼市立松岩中学校生徒(2名)、韓国:虎元 (ホウォン)初等学校生徒(3名)、NZ:アンダーソンズベイスクール生徒(4名)
参加者数	160人	

◆帰国渡日児童生徒学校生活サポート事業・豊能ブロック協議会

<豊能ブロック協議会構成団体> 計22団体

大阪府教育委員会	豊能地区在日外国人教育研究協議会
池田市教育委員会	池田市在日外国人教育研究協議会
豊中市教育委員会	豊中市在日外国人教育推進協議会
箕面市教育委員会	箕面市在日外国人教育研究会
能勢町教育委員会	能勢町在日外国人教育研究協議会
豊能町教育委員会	豊能町在日外国人教育研究協議会
豊能地区進路保障協議会	豊能地区人権教育研究協議会
池田市進路保障協議会	(公財)とよなか国際交流協会
豊中市進路保障協議会	(公財)箕面市国際交流協会
箕面市進路保障協議会	大阪府在日外国人教育研究協議会
豊能郡進路保障協議会	大阪府立学校在日外国人教育研究協議会

豊能ブロック「多言語による進路ガイダンス」	
実施日時	11月9日 13:00～16:00 ※13:00～14:00 進路説明会 ※14:00～14:20 先輩体験談 ※14:30～16:00 個人相談会
場 所	とよなか国際交流センター
参加者数	77人
内訳	生徒 8人/保護者 11人/通訳者 11人(6か国) 関係者 45人/先輩 2人

3. 多文化子どもエンパワメント事業

(1)とよなか子ども日本語教室

2010年度に始まったとよなか子ども日本語教室から日本語指導者グループ「とよなかJSL」が生まれ、2012年度より、とよなか国際交流協会・とよなかJSL・行政の3者協働事業「とよなかこども日本語教室を拠点とした学習に必要な日本語力・生活力の保障とそのシステム作りのための事業」(「こどもにほんごプロジェクト」)が3ヶ年計画として始まった。協会は、指導者(ソフト面)の育成、学校や市教委等との連携のもと支援体制(ハード面)を推進した。

◆子どもの日本語指導者養成講座

実施日	内 容	講 師	参加者
第1回 7月13日 13:30～17:30	「日本語指導が必要な子どもの状況」 「日本語指導実践の前に知っておくこと」	亀谷智(豊中市教育委員会 人権教育室)/金 生遵(豊中市教育委員会 渡日帰国児童生徒 相談室)/田中薫(とよなかJSL)/山本房代(と よなか国際交流協会)	13人
第2回 7月20日 10:00～17:45	「小学校低学年の日本語指導の実際・指導上の工夫」 「小学校高学年の日本語指導の実際・指導上の工夫」 「教科学習に結びつく日本語学習」	宮阪蓉子(大阪市教育委員会日本語指導協力 者、「とよなかこども日本語教室」アドバイザー) 田中薫(とよなかJSL)	14人

◆とよなかこども日本語教室の運営

豊中市内の日本語指導が必要な児童生徒を対象に日本語学習のための教室を週3回催し、適宜学校とも連絡を取り合った。ボランティアは教室の前後に綿密なミーティングを開き、指導内容の確認や振り返り、子どもの情報交換などを行った。子どもの日本語指導者養成講座を修了したボランティアの継続的なかわりのなかで指導力が向上し、さまざまな子どもの日本語力に応じたカリキュラムが作成されると同時に、子ども同士の相互学習にもつながった。2013年度は、養成講座終了後新たに2人のボランティアが加わり、指導者の層も厚みを増してきた。また、日本語学習相談は37件と前年度の倍以上の件数となった(前年度16件)。

実施日	毎週月曜 15:00~16:30、16:30~18:00
	毎週木曜 15:00~16:30、16:30~18:00
	毎週土曜 14:00~16:00
場 所	とよなか国際交流センター
期 間	2013年4月8日~2014年3月22日
回 数	128回
参加者数	子ども(のべ937人)、ボランティア(のべ1,135人)
	見学者(のべ7人)
日本語学習相談	37件

◆支援者意見交換会

例年「支援者セミナー」と題し、外国にルーツをもつ子どもや乳幼児に関わる学校関係者にセミナーを行ってきた。今年度は講義形式ではなく、子どもに関わる関係者の意見交流を目的とした「意見交換会」の形式で実施した。参加者は、学校現場や日本語教室での様子を共有し、今後の日本語指導に向けての対応などを確認した。

実施日	テーマ・参加者	参加者数(人)
2月17日	外国にルーツをもつ子どものことばと発達 指導者意見交換会	18人
	「子ども日本語教室」に通う子どもに関わる学校関係者、日本語指導者グループ 「とよなかJSL」、豊中市教育委員会、とよなか国際交流協会	

(2)たぶんかミニとよなか

国際教育の推進を図るため、豊中市国際教育推進協議会との共催で多文化フェスティバル(帰国児童生徒、在日コリアン児童生徒・渡日外国人児童生徒など、国際に関わる子どもやその保護者、また国際教育に関心のある先生が、一同につどい、つながり、交流を深める機会)を例年開催している。9回目を迎える2013年度は、大学生ボランティアの企画・運営のもと、子どもたちによる子どものまちづくり「たぶんかミニとよなか」の活動に取り組んだ。教員、支援者、保護者向けには、国際教育ワークショップ、インターナショナル・カフェ、を実施した。

ミニとよなか	学生スタッフ会議	9月29日、10月27日、12月1日
	内 容	こども会議に向けての下準備、材料収集など
	参加者数	計15人(9/294人、10/276人、12/15人)
	ミニとよなか子ども会議	
	実施日	11月10日、17日、24日
	内 容	11月10日:アイスブレイク、コンセプトの説明 11月17日:コンセプト班、レイアウト班、ブース班に分かれて作業 11月18日:コンセプト班、レイアウト班、ブース班に分かれて作業、お金づくり
	参加者数	11月10日(19人:うち子ども14人、ボランティア5人) 11月17日(28人:うち子ども12人、ボランティア16人) 11月24日(20人:うち子ども12人、ボランティア8人)
多文化フェスティバル	12月8日(日) 10時~16時	
場 所	2ABC(国際教育ワーク)、CCスペース(インターナショナルカフェ)、すてっぷホール(たぶんかミニとよなか)	
(参加人数)	多文化フェスティバル(240人、うち外国人100人)	
<テーマ:内容>	<国際教育ワークショップ:内容:「たまごのワークショップ」>	
講 師	講 師:伴野多鶴子さん(地域教育推進協議会連絡会会長) <インターナショナル・カフェ:内容:外国につながるある保護者の交流会、絵本の読み聞かせ> 講 師:豊中市国際教育推進協議会 <たぶんかミニとよなか:内容:多文化なこどもによる、こどものまちづくり>	

◆南北コリアと日本のともだち展

2001年北朝鮮で起きた飢餓問題を受けて、「21世紀を平和の世紀としたい」という願いのもとに、日本と朝

鮮・韓国・在日コリアンの子どもたちの出会いと交流の場として「ともだち展」が東京で始められた。2011年、大阪で実行委員会形式でこの「ともだち展」を大阪国際交流センターならびにとよなか国際交流センターで開催し、今年度は3回目の大阪展であった。今回の絵画展は「ともだちと一緒にいきたいところ」をテーマであった。

今年度は協会から韓国・朝鮮のことばとあそびのつどい実行委員会に呼びかけ、ハギハッキョ(夏期学校)において朝鮮半島にルーツを持つ子どもたちに絵画の作成をしてもらった。また、協会事業(子ども母語、サンプルイス)に参加する子どもたちにも声掛けをし、作成してもらった絵画を多文化な子どもたちの絵として、とよなか展、大阪展ともに展示した。とよなか展は豊中市の人権月間に合わせて12月1日～12月9日にかけて開催し、のべ1,770人(うち外国人664人)の来場があった。

実行委員会	6月13日、7月26日、9月9日、10月7日、11月6日、1月20日(計6回)		
メンバー	(特活)アユス仏教国際協力ネットワーク関西事務局、エリーニ・ユネスコ協会 国際教育フォーラム、大阪市小学校教育研究会国際理解教育部会 大阪ユネスコ協会、(公財)大阪YWCA、関西韓国YMCA 堺ユネスコ協会、(特活)コリアNGOセンター 在日韓国基督教会館(KCC)、在日コリアン青年連合(KEY) (公財)とよなか国際交流協会、(特活)とんだばやし国際交流協会		
大阪展	11月22日～11月24日	展示枚数	227点
場 所	大阪国際交流センター	参加者数	406人
豊中展	12月1日～12月10日	展示枚数	100点
場 所	とよなか国際交流センター	参加者数	1,770人(うち外国人664人)
子どもワークショップ	①11月23日 ②12月8日		
場 所	①大阪国際交流センター ②とよなか国際交流センター		
内 容	①浜田桂子さんの絵本『みんなでパレード』 ②こどもがつくるこどものまち「たぶんかミニとよなか」 ※多文化フェスティバル時に絵画展の子どもワークショップとして開催		
参加者数	① 24人 ②80人		
講演会:場所	11月24日		
場 所	大阪国際交流センター		
テーマ(講師)	東アジアの平和構想 -市民の役割(朴一さん<大阪市立大学教授>)		
参加者数	20人		

(3)多文化子どもエンパワメント事業

①外国にルーツを持つ若者支援

(文化庁受託事業【平成25年度『生活者としての外国人』のための日本語教育事業】「外国にルーツをもつ若者の生活力・表現力アップ日本語事業」)

外国にルーツをもつ人のなかでも、これまで対象事業の少なかった「若者世代」を対象に様々な講座や活動を行うと共に、地域における外国にルーツをもつ若者の現状把握や関係機関のヒアリングなどを実施した。具体的には、「Ⅰ.ユース☆ライブプランニング日本語講座～外国にルーツを持つ若者応援プロジェクト“よっぷろ”～」、「Ⅱ.ユース☆対話・メディア日本語講座」の中で複数の講座を実施した。

◆事業運営委員会

実施日	2013年6月26日、11月18日、2014年3月17日(計3回)
メンバー	豊中市教育委員会 人権教育室 豊中市教育委員会 帰国・渡日児童生徒相談室 豊中市教育委員会 青少年育成課 豊中市 市民協働部 雇用労働課 豊中市 人権文化部 人権政策室 大阪大学 未来共生戦略機構 特任准教授 大阪大学 未来共生戦略機構 特任助教

◆Ⅰ.ユース☆ライブプランニング日本語講座～外国にルーツを持つ若者応援プロジェクト“よっぷろ”～

①「～生活まるごと～よみかき講座」

生活に必要な日本語の「読み」と「書き」を中心に、若者が興味を持ちやすい身近なテーマに沿って体系的に学習した。(場所はとよなか国際交流センター)

【テーマの例】ひらがなカードの作成、カードを使ったひらがなの覚え方/頼み方・「すみませんが、～してください

い。」動詞のテ形／自分の考えを話す。～と思い増す。～と考えます。／年賀状づくり・日本の行事等

実施日／期間	毎週土曜 11:00～13:00／2013年6月29日～2014年3月15日
対象	外国にルーツをもつ若者
回数	72回
参加者数	若者 のべ 133人 (うち外国人 133人)
	講師 のべ 104人

②「～からだところの～フリーダム日本語講座」

若者の「からだ」と「ところ」をテーマに、性に関する情報や知識、交際、子育て、芸術・スポーツに関する日本語講座を行った。多感な時期であり社会に出て行く過程にある若者が、興味関心にあった日本語を学びながら、地域社会とつながるきっかけをつくることを目的とした。

さらに、ピア(同じ仲間)でありロールモデル(目標となる人)となる外国にルーツをもつ若者にゲストやアドバイザーとして参加してもらうことで、進路や生活に関する悩み・疑問が共有されやすい場づくりを目指し、気軽に話の出来る場(「語ろう会」や「同窓会」)、居場所(「たまりば」)などをもうけることで、若者同士の交流や多様な人々との出会いの場を創出した。(場所はすべてとよなか国際交流センター)

日程・期間	タイトル	内容	人数
8月25日	「ピアサポーター・ボランティアの役割って…？ざっくばらんに語ろう会」	横浜で活動をする外国人当事者団体“すたんどばいみー”のメンバーと、その活動を長く見守っている中学校校長の柿本先生を囲んでの座談会	若者 15人(うち外国人10人) 講師 4人(うち外国人3人)
8月31日	「サンブレイス・トワイライト 卒業生・ボランティア 同窓会」	協会事業の柱の一つで外国にルーツをもつ子どもの居場所として継続しているサンブレイス・トワイライトの同窓会	若者 16人(うち外国人14人)
11月30日、 12月8日	「多文化お料理講座」	若者たちが、自らのルーツにつながる料理づくりを通じて仲間や先輩と出会う。また、料理を提供する際の調理の計画づくりや当日の流れなどを考える中で企画力を身につける。	若者のべ 13人(うち外国人13人) 講師のべ 9人(うち外国人7人)
1月31日	「しっておきたい！健康と心とダイエット & 無料相談会」	健康とダイエットについての基礎知識と健康相談会	若者、センター利用者 40人(うち外国人38人) 講師 1人(うち外国人1人)
1月26日、2月9日、2月16日	「サムルノリを体験しよう」	韓国朝鮮の伝統楽器4種を用いたパーカッションアンサンブル「サムルノリ」についての講義、練習、発表。	若者のべ 51人(うち外国人42人) 講師 1人(うち外国人1人)
12月21日～3月16日	「多文化ダンス教室」 毎週木曜日 18:00～20:00、毎週日曜日 10:00～12:00／	外国にルーツをもつ若者がダンスを通じて仲間や多様な人々と出会い、自分自身を表現することに自信をもつことを目的としたダンス教室。	18回:若者 のべ 176人(うち外国人158人) 講師・アシスタント のべ 47人(うち外国33人)
1月16日～3月20日	「たまりば」 毎週木曜日 18:00～20:00	外国にルーツをもつ若者が、仕事帰りや学校帰りに気軽に参加できる居場所づくり。	10回:若者 のべ 97人(うち外国人73人)

③まちを知る！しごとを知る！しゃかいをしる！日本語講座

地域で若者支援・就労支援を行っている団体、地域に根差した企業、行政関係部署などから、若者が活用できる「まち」の資源(公共施設や交通機関、病院等)、「しごと」へのアプローチ(会社や工場等)などを日本語学習を通じて学んだ。さらに、日本社会や日本のマナー、将来についての夢や仕事についてを語り合うことで、日本社会で生きていくことの展望を持てるような機会を設けた。(場所はすべてとよなか国際交流センター)

日程	タイトル	内容	人数
10月5日	「農家の仕事を知らう」	福島県の果物農家の方を招き、農家の仕事についてや働くことについて語り合った。	若者 8人(うち外国人7人) 講師 3人(うち外国人1人)
2月13日	「“若者の居場所”について考える」	“若者居場所工房・ぐーてん”の取り組み内容・居場所作りの問題点・課題・展望等を意見交換した。	若者 6人(うち外国人6人) 講師 1人(うち外国人0人)
3月1日	「おしごとカフェ」	仕事、将来、夢について、堅苦しくない場で語り合った。	若者、センター利用者 4人(うち外国人4人) 講師 1人(うち外国人0人)

◆ II. ユース☆対話・メディア日本語講座

本講座では、若者たちがピアである受講生同士での「対話」活動を通して、人間関係の構築や拡大を目指し、メディア制作を通して自己表現ができるようにした。そして若者の声が引き出されることにより、これまで潜在的であった若者の課題をさまざまな関係機関に認識されていく素地をつくった。講座は、声のメディアを扱う「ラジオ講座」とそのほか広く対話や表現、メディアに関することを扱う「対話・メディア講座」の2講座をもうけた。

①ユース・ラジオ講座

ラジオという「声のメディア」について制作の基礎や番組構成を知り、実際に自分のオリジナル番組を計画することで、新しい発信の仕方、表現の仕方を知る。また、自分自身で番組制作、発信など一連のプロセスを経ることで自信をもって自分の意見や想いを表現することが出来た。

実施日	2013年7月14日、7月20日、8月24日、9月1日、9月15日
場 所	とよなか国際交流センター
内容一例 (実施日)	初めて出会う人たちに自分を紹介をする、ラジオ番組の内容や制作について、まず自分でイメージやアイデアを考え、他の参加者に伝える。(7月14日)／ キューシートの書き方を知り、実際に自分の理想の番組のキューシートを書く、キューシート通りに番組をつくり、録音する。(9月1日)
参加者数	若者 のべ23人(うち外国人23人) 講師 のべ7人(うち外国人4人)

②ユース対話・メディア講座

「対話」「表現」「製作」についてそれぞれ講座をもうけ、自分自身を語ることや語りたい想いを言葉にすること、メディアを含む多様な表現方法を介して表現を行うことを学んだ。

実施日	10月6日/13日/20日/26日、11月10日/17日/23日、12月15日、1月12日/13日/25日/26日、 2月2日/6日、3月16日
場 所	とよなか国際交流センター
期 間	2013年10月6日～2014年3月16日
回 数	31回
内容一例 (実施日)	【対話講座】わたしを語ろう①: 自分自身の現状、心のうちについて言葉にする練習(10月6日)／ 【表現講座】「ことば」について語ろう①: 「対話講座」「表現講座」で行ってきたことを振り返りながら、「ことば」のもつ意味や表現のバリエーションについて考える。(12月15日)／ 【製作講座】メディア表現で伝えよう③: これまでの講座で話し合われたことをもとに、製作に関するプロセスをシミュレーションする。撮りたい作品に関わる人々へのアポイントメント、調整などをおこなう。(1月26日)
参加者数	若者 のべ186人(うち外国人186人) 講師・アシスタント のべ69人(うち外国人28人)

② 多文化子どもエンパワメント・メディアプロジェクト (てーげー部) (公益財団法人庭野平和財団助成事業)

外国人の定住化や国際結婚、日本国籍取得などの増加により、日本生まれ・日本育ち、ダブルの子ども、日本国籍の子ども、また母国と日本を往来する子どもなどが増えており、生育環境、家族形態、国籍や名前など、多種多様な「外国につながる子ども・若者」が存在している。しかし、「外国につながる子ども・若者」は、国籍・民族・ことば・文化等がひとつに固定されず、特定の活動や枠組みに当てはまらないがゆえに、不安定なまま潜在化する傾向にある。このような外国につながる子ども・若者たちが映像作品の制作を通して、多様な文化の織りなす自分自身を積極的にとらえ、さまざまな形で発信方法を身につけ、これまでの特定の「枠組み」をいったん捨て、「日常」からスタートしようと表現活動に取り組み、出会いの場を創造することを目的として実施した。

「ハーフ」「ダブル」「混血児」「外国人」等についてのイメージや価値観をメディアから一方的に「与えられる」のではなく、自らが表現し発信者となるための方法や力を獲得し、マジョリティ社会へ価値観の問い直しを発信することも目指した。そのために、2013年度は昨年度制作の映像作品『ナニジン?—トモダチ作戦—』(10分)の上映会や講演会を豊中市内外で行うと同時に、次回映像作品の製作にむけて勉強会や企画構想、撮影を行った。

◆映像作品名:『ナニジン?—トモダチ作戦—』(放映時間10分)

内容:「ダブル、ハイブリッド、クォーター、混血児? 同じ悩みを語る人がみつからない、居場所がみつからない そんなあなたを待っています。この映像は、出発点です。一緒にこの続きをつくりませんか?」

会 議 (参加者数)	7月7日(5人)、7月14日(2人)、7月21日(3人)、7月28日(1人)、8月18日(5人)、8月25日(3人)、8月27日(5人)、9月1日(3人)、9月15日(11人)、9月29日(8人)、1月9日(1人)、1月11日(1人)、計12回(のべ48人)
撮影・編集 (参加者数)	撮影合宿(沖縄県) 2月9日～11日(10人) 2月8日(5人)、3月30日(7人)、計3回(のべ22人)
上映・ 対外関係	① 2013年8月27日 豊中市立環境交流センター主催「豊中エコここTV」出演 ② 2013年10月26日「国際交流と人権を考えようパート2」上映会と意見交流会

	③ 2013年10月31日 府立桜塚高等学校(豊中市)にて上映会・講演会 ④ 2013年11月17日 文京学院大学(東京都)学生にむけての上映会と意見交流会 ⑤ 2014年1月13日 豊中市成人式「20フェスタ」
場 所	①豊中市立環境交流センター／②④とよなか国際交流センター／③桜塚高等学校／⑤青少年の家いぶき